

未来の科学 感性でひらく

「いま、科学技術を学ぶということ～ボーダーレス化する知の世界～」をテーマにしたシンポジウム(関西学院大学主催、朝日新聞社後援)が7月21日、大阪市北区のグランフロント大阪で開かれた。今年創立125周年を迎えた関西学院の記念行事「世界市民フォーラム」。「理系」「文系」という枠にとらわれず、新たな価値を創造するにはどのような学びが必要なのか。専門家らの活発な討論に約500人が耳を傾けた。



価値の創造につなげて ■ 自然エネルギー軸に

長田 物質的な欲求をとめて別な何か価値を見いだせば、同じエネルギーで

高橋真 自然エネルギーが将来のメインにならなければならないのは間違いないことだ。それは、技術だけでなく社会システムの変革が必要だ。そういうところまで考え、しかも技術が分かる人材を大学が育ててほしい。

理系と文系 関係ない ■ コミュニケーション力を

長田 個人の感性、創造性を伸ばす社会をつくるには、感性を磨くことが重要だ。感性を磨くためには人と会い、ものを見る。例えば、無難で壊れない車より、同じ値段で壊れそうなスポーツカーを買ってみる。何かがある。そういうものに触れ、感性が磨かれることがある。

「遊び心」 役立つ物うむ

「遊び心」 役立つ物うむ

高橋真 生命科学の未来について、パラスに描かれる時がしばしばある。再生医療の応用には、色々な要素を考え、慎重に進める必要がある。その前提として、病気がなくなるかのように思われては、社会にとってかえって良くない。応用にはまだ時間がかかる。これで自分の病気が治ると信じ込むような人が出れば不幸なことだ。

高橋真 生命科学の未来について、パラスに描かれる時がしばしばある。再生医療の応用には、色々な要素を考え、慎重に進める必要がある。その前提として、病気がなくなるかのように思われては、社会にとってかえって良くない。応用にはまだ時間がかかる。これで自分の病気が治ると信じ込むような人が出れば不幸なことだ。

「遊び心」 役立つ物うむ

高橋真 科学技術の知識を持つ人材は、社会に必要な。あらゆる場面で定量的、論理的に物事を考え、決断する能力を身につけてほしい。



已波 弘佳さん



長田 典子さん



沖米田 司さん



高橋 真理子

「遊び心」 役立つ物うむ

「遊び心」 役立つ物うむ

高橋真 生命科学の未来について、パラスに描かれる時がしばしばある。再生医療の応用には、色々な要素を考え、慎重に進める必要がある。その前提として、病気がなくなるかのように思われては、社会にとってかえって良くない。応用にはまだ時間がかかる。これで自分の病気が治ると信じ込むような人が出れば不幸なことだ。

高橋真 生命科学の未来について、パラスに描かれる時がしばしばある。再生医療の応用には、色々な要素を考え、慎重に進める必要がある。その前提として、病気がなくなるかのように思われては、社会にとってかえって良くない。応用にはまだ時間がかかる。これで自分の病気が治ると信じ込むような人が出れば不幸なことだ。

高橋真 生命科学の未来について、パラスに描かれる時がしばしばある。再生医療の応用には、色々な要素を考え、慎重に進める必要がある。その前提として、病気がなくなるかのように思われては、社会にとってかえって良くない。応用にはまだ時間がかかる。これで自分の病気が治ると信じ込むような人が出れば不幸なことだ。

高橋真 生命科学の未来について、パラスに描かれる時がしばしばある。再生医療の応用には、色々な要素を考え、慎重に進める必要がある。その前提として、病気がなくなるかのように思われては、社会にとってかえって良くない。応用にはまだ時間がかかる。これで自分の病気が治ると信じ込むような人が出れば不幸なことだ。

◆この特集は浅倉拓也、阪本輝昭、堀内義晃(写真)が担当しました。

関西学院大学 理工学部 新3学科 2015年4月誕生

- ◆先進エネルギーナノ工学科 ◆環境・応用化学科 ◆生命医化学科



数理科学科 / 物理学科 / 化学科 / 生命科学科
情報科学科 / 人間システム工学科
先進エネルギーナノ工学科
環境・応用化学科 / 生命医化学科

関西学院大学 理工学部



Science and Technology for a brighter future.

社会のあり方をかえよう。新エネルギー、地球環境、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)など、我々は様々な課題に直面している。この不確かな社会に何をすべきだろうか。関西学院大学は、理工学部「グリーン・イノベーション」「ライフ・イノベーション」をキーワードとした、世界が進むべき未来へ科学技術で導く、応用系3学科を新設。基礎研究から応用開発までカバーする「新生」理工学部は、社会が向かうべき姿を提示し、その発展に全力で挑戦する。